地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

Ⅰ．理念に基づく運営
　１．理念の共有
　２．地域との支えあい
　３．理念を実践するための制度の理解と活用
　４．理念を実践するための体制
　５．人材の育成と支援

Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援
　１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
　２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
　１．一人ひとりの把握
　２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
　３．多機能性を生かした柔軟な支援
　４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
　１．その人らしい暮らしの支援
　　（１）　一人ひとりの尊重
　　（２）　その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
　　（３）　その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
　　（４）　安心と安全を支える支援
　　（５）　その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
　２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
　　（１）　居心地のよい環境づくり
　　（２）　本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

Ⅴ．サービスの成果

※記入方法
　○管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
　○グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
　○取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
　○取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
　○サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について
　○評価項目は、１００項目です。

事 業 所 名　グループホーム　はまゆう

ユニット名

自己評価実施年月日　平成　２０年　６月　１３日

記録者氏名　山本　淳子

記録年月日　平成　２０年　５月　２０日

自己評価票

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしさとなじみの関係づくり」を理念として掲げており、地域のつながりや近所付き合いも大切にできるように努めている。		現状の理念に加え、今後も地域との交流を基本に社会とのつながりを大切にしていきたい。また、職員の意識も統一できるよう確認していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月に２回、話し合いの場を持ち、何事も職員全体で考え、共有し、実践できるように取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族へは運営推進会議や家族会の開催をとおして、理解に努めている。また、行事のお誘いや回覧板によるお便りの回覧で少しづつ浸透しつつあると感じる。	○	地区の集まりの定例会や役員会へも参加させていただき、機会があれば施設の理解と協力が得れるように取り組んでいきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの行事ではお誘いをし、地域の行事ではお誘いをうけたり、利用者と共におつきあいを積極的にしている。地域へは散歩途中に出会った方には、こちらからのあいさつを心掛け、来園の声かけもしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年恒例の地域の行事は入居者、職員と共に参加することで地域交流に努めている。地域の老人クラブの方々との交流は前年度よりも増えている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	具体的な取り組みはできていないが、気軽に寄ってほしいことを声掛けしている。地域の老人クラブの活動では、場所と交流の機会が提供できている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員会の際に徹底し、評価の意義について理解を得ている。新人のオリエンテーション時にも話すようにしている。実行につながっていないこともある。	○	毎回の評価をとおして、全員で現状を振り返り、見直しを行うことで良い勉強になっている。今回気づいた点をどう活かし改善していくか、時間をかけて一つ一つ話し合いをしていきたい。また、年1回以上定期的に話す機会を確保していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活用できているとは言えないが、話し合いの内容や意見は職員に伝え、反省や自信に繋げることができている。外部評価の結果報告や取り組みについても議題として取り上げ話し合っている。		開催度に会議の内容について苦難している状況があるが、外部評価の結果を公表していくことで、客観的な意見がもらえるよう年間の議題として挙げていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何かあれば問い合わせをし、指導、助言をいただき方向性を確認しながら実践している。	○	考え方や実態を市担当者に知ってもらうことで、多くの意見いただけるよう、連携を図って行きたいと考える。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	必要な方への支援としては、管理者と関係者で話し合いを持っているが、職員の十分な理解ができておらず、学ぶ機会を持てていない。	○	職員間での勉強会の開催等を検討していきたいと考える。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会参加は一部の職員であるが、研修内容については他職員に伝達する程度の防止活動に留まっている。	○	職員全員が研修に参加できることが望ましいが、施設の現状として難しいと思われるため、研修内容の伝達が十分なものとなるよう、職員教育につなげていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時においては、契約者が理解できるまで十分な説明を行い質問を受けるなどで理解や納得を図っている。利用するにあたって不安がある方については、体験利用も行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見は十分に聴きたいと感じているが、本人からの意見聴取が困難な場合が多く、家族から聴かせてもらったり、意見をいただいたりして反映に努めている。	○	十分ではないため、課題として話し合っていきたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会の場や定期的な通信の発行で、近況の報告をしており、面会の際にも伝えるようにしている。また、緊急時等必要時には電話にて報告している。	○	時に連絡の抜かりがあるため意識の強化に努めたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、不満、苦情についてうまく聞き取りができていないが、「些細な事でも気の付いた事があればお願いします」と一言添えるようにしている。気軽に声を掛けていただけるように努めている。	○	家族としての立場では、意見が言いにくいと推測するが、外部へ意見する場所があることを繰り返し説明していきたい。また、家族と交流を図っていくなかで率直な意見を言っていただける関係ができればと考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を反映できるよう、職員会やミーティングの際には職員間で意見を出し合い、改善に向くように努めている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況に配慮し、出勤職員の増員や時間等の勤務調整を行い、柔軟な対応に努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限に抑えたいが、困難な部分もある。しかし、開設当初から勤務する職員4名は確保できている。	○	職員が代わる場合は、利用者へのダメージを最小限に防げるよう配慮できることを話し合っていきたい。
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成計画は立てていないが、法人内外の研修の度に、勤務調整を行い研修に参加できる体勢の確保に努めている。	○	職員の育成について十分でないことを反省する。多くの課題が残っていることを実感しており、今後の取り組みを検討する。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に2回程度の交流の機会を設けている。また、研修や訪問等でも交流を図ることができている。	○	まだまだ、交流回数が少ないため、更なる呼びかけと取り組みを検討していきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	現在、特別な取り組みができておらず、今後の課題となっている。	○	定期的に意見や思いを伝えれる場を作っていきたい。具体的な取り組みを検討していく。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の勤務実態について把握できるように努めているが、各自が向上心を持って働けるような対応は特にない。しかし、機会があれば労力、努力、実績への感謝の気持ちを伝えるようにしている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所に至るまでに、面会の機会を確保するように努めている。その中でより多くの情報や本人の意をくみとれるよう努力している。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	上記項目と同様に、家族とも会う機会を多く確保し、そのなかでより多くの情報、本人の意向や生活の希望等をくみとれるよう努力している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所のための説明に徹すること無く、相談時に本人や家族が困っている内容について適切に判断し、利用可能なサービスや相談機関の説明等を行い他機関との調整に努めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	地域に開放された施設を目指しており、施設見学や馴染めるまでの来訪等は常時受入れをしている。このため納得した上での入所が可能である。しかし、本人の納得されない入所も数件みられており、本人と家族の気持ちを伺いながら、時間をかけ来園を重ねることから始め対応している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者自身のできることを見極めながら、入居者と共に家庭的な雰囲気で日常を過ごし、人生経験から得られた知識等を入居者から教えられることも多くある。職員にとっても良い刺激になっており、支え合う関係にもつながっている。	○	寂しい思いをしていたり、嫌な思いをしたり、いろいろな場面があるかと思われるが、入居者の意をくみとり、自然なフォローが職員全員にできるよう意識づけていきたい。私たちも助けられていることを伝え、力になっていることを実感してもらえるように配慮していきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会等にて意見交換の場も確保できており、入居者の情報を通じて家族の支援をすると共に、行事の際には家族に参加協力の依頼をするなどで良い関係ができていると考える。家族でないとできないことを提案していく。	○	家族でないとできないことを提案し、協力をお願いすることで、何かできるという意識につながっていくと考える。今以上に共に支え合える関係を作っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所前や入所後も本人や家族の情報を得るように努め、本人と家族がいつでも電話等により連絡できるよう必要時には代理連絡する等の対応をしている。本人と家族間の良い関係を継続できるよう今後も支援を継続していきたい。	○	地元が離れた場所にある方には支援不足を感じている。定期的な里帰り等の計画を提案していきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活が入居後も継続できるよう、可能な限り協力していく方針で、買い物への同行や必要部分に対する一部介助などで、大切にしてきたことやなじみのことから離れない支援に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	元々の知り合いであったり、入居後仲良くなった入居者を把握し、談話の機会を確保している。また、様々な行事への参加や日課作業等にスタッフも交わり交流が持てるように援助している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	季節のはがき、電話で連絡を取っている。中には退所された方のご家族であるが、ご自身の帰省機会を利用しての訪問も続いており、関係は保てているが、一部の方である。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所者個々の意向を担当職員を主体に定期的に確認している。カンファレンスや職員会などで共有しホーム生活に活かしていけるよう話し合っている。また、意向を言えない人は、表情や態度から思いがくみとれるよう、意識し職員全体で取り組んでいる。	○	把握ができていると思っているが、本人本位について常に意識をもち、定期的な確認を続けていくことで、思いこみにならないように注意していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人若しくはご家族から暮らしの情報を聞くことで把握をし、昔していた仕事を活かしてできることや趣味を活かしてできること等、生活の中で取り入れている。	○	まだまだ情報が少ないため、情報収集に努めていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	業務日誌、引継ぎノートを活用し把握に努めている。その日にあった出来事をありのまま記録に残し、生活の見える記録となるように努めている。本人の姿を大切にできるよう声を掛け合っている。	○	業務中心になっている場面も見受けられるため、常に、できる力やわかる力を見極めて持っている力を発揮できるように見守っていきたい。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族、職員からの情報や意見を元に作成している。	○	現状ではグループホームの生活を中心に作成しているので、今後は地域でその人らしくという視点も取り入れ作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直し以外にも、本人の状態、家族からの意向に応じて、変化があれば新たに計画を作成している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別記録からの情報を共有し、職員会で話し合うことで、現状の把握と介護計画の見直し、計画作成に活かしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会やご家族の宿泊、外泊や外出等いつでも可能なこと、食事も一緒にとれることの声掛けをし、柔軟な対応に努めている。	○	今後、看取り介護をしていく上で、医療機関と話し合いや職員全員の知識や学習能力の向上に努め、より柔軟な対応ができるようにしていきたい。
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在の所、地域資源の利用が十分ではないが、協力体制として地元の消防団との連絡体制、地区の避難訓練への参加、消防署との訓練等で協力が得られる方向付けに努めている。行事の際には、近所の方々のボランティアによる協力をいただけている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のケアマネージャーやサービス事業者と連絡はとっているが、サービス活用支援はできていない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要時には連絡をとり、意見をもらっている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携はとれており、定期的に報告することで家族も納得されている。 本人の状態に応じて他機関への受診もしている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に認知症について相談している。	○	認知症について具体的に相談、指導してもらえる専門医師の協力がいただきたいと考える。今後そういう医師と関わっていくことが課題である。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関との連携を図り、不安なことは相談している。また、事業所内に看護師を配置していることで、支援の充実が図れつつある。	○	看護師の定着で入居者やその家族の安心につながり、更なる支援の充実が図れるように取り組みを検討していきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医師、看護師、家族と共に相談ができている。退院にむけ、入院先のカンファレンスに参加するなどで情報交換、連携できている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態変化に合わせて家族、主治医との話し合いの場を持ち、その都度意向の確認もしている。指針についてはスタッフの確認用にファイルを作成した。	○	勉強会の実行に向け計画中、勉強会をもとに知識の向上、スタッフの思いの確認、不安の解消につながるように活用していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	同上であり、家族の思いとは、主治医の意見とは、事業所としてできる範囲とは、等を、状態変化に合わせて確認し支援体制を整えている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	環境が変わることについては家族と十分に話し合いの時間をもち、関係者とも相談している。本人にとって少しでも不安が少ないよう、できる限りの情報を提供し、お願いしている。また、転居後の様子も伺うようにしている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **１．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	新人研修や職員会等で話す機会を持ち、プライバシーについて再確認し、不適切な対応があった場合にはお互いが注意し合える関係づくりをし徹底している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	さりげなく会話の中で希望を聞けるように努め、その人らしい生活に向けて支援している。また、希望が聞かれた場合は早急な対応をしている。	○	業務中心になり職員の思い込みや決定がないか、今後も職員同士で確認していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声掛けのタイミングを見計り、体調や気分に応じて環境を整え、その人らしく過ごせるように努めている。	○	業務を優先してしまう場面も時々見受けられるため、みんなで意識し取り組んでいきたい。
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望の店や行きつけの店があるかないかを確認している。現在は殆どの方がご希望の店がないということで、近所のお店を利用している。希望があった際は、近日中にいけるように配慮している。以前には希望の店があるということで送迎をし、本人が望む店への支援をしてきた。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 　食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞き、メニューに取り入れている。調理、準備、片付けなど、できることをそれぞれ負担にならないよう、共に作業をしている。		
55	○本人の嗜好の支援 　本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物は個々に聞き対応している。おやつについては、希望の物を作ったり買ってきたりして提供している。買い物への支援もしている。		
56	○気持よい排泄の支援 　排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入院によりオムツ使用となっていた方のオムツ外しに成功した。尿意がないと思われる方でも定期的なトイレ誘導でトイレでの排泄が行えている。	○	今後もオムツに頼らずトイレでの排泄を支援していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 　曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の体調も含め、毎日各自の希望を聞き、入浴を行っている。		
58	○安眠や休息の支援 　一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動や夜間の照明、音などに配慮し安眠につなげている。また、睡眠のリズムがつかめない時は、入眠の実態把握に努め、家族、主治医と相談し対応について考えている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 　張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、散歩、刺繍、畑の世話、買い物、等、個々の得意なことを生活の中に取り入れ見守っている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預かり金は管理者が管理しているが、少額のお金については家族の了承のもと所持している方が数名おられる。自信で支払いをされる方は支払いの際、確認をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に出ることが少なくなっているが、外出の機会として、月4回の体操参加は続けている。併設施設ができ利用者との交流、施設内の行き来ができている。声かけの工夫で心を動かし、体を動かすことができるため、実践に向けている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別に外出できるよう体制を整え、希望時には早急に対応できるよう時間調整を行っている。また、職員からの提案をし出掛ける気分作りに努めている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族には、時々電話をしたり、荷物が着いた時には必ず連絡をしている。また、季節のお便りや年賀状などの、やり取りをしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問の受け入れをしている。居室でゆっくりお茶を飲んでもらったり、おやつを一緒に食べてもらったりしている。通常から家族の面会が多く、友人や知人の来園も増えてきている。	○	地域住民の方の来園が増えるように声掛けの継続に努めていきたい。
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事実はない。安全を確保しながら、本人らしく生活できることを見守っている。	○	定期的に身体拘束について考える機会を作り、今後も身体拘束の事実がないよう努めていきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室・玄関にカギはかけていない。開設当初から鍵をかけないケアをしており、施錠の意見が出た話し合いの場では、「施錠の考えまでに何かできることはないか」との問いかけをし、思いの方向性を整え、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	行動やサインを観察し、さりげなくフォローしていけるよう、些細な変化も職員間で申し送りをしている。エスケープ事故が相次ぐ方については特に居場所確認を行っており、外出の対応は個別に行っている。、状況変化に合わせ、その都度話し合いを持ち、プライバシーに配慮しながら職員全体で注意し、見守っていけるよう努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品については、ヒヤリハット報告などをとおして安全に配慮できるように検討し、その都度話し合い対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットや事故の報告を教訓に、職員会などで話し合い、今後どうすれば同じことがおこらないか、意見を出し合っている。最近、事故防止委員会を作った。今後更なる事故防止の対策を取っていきたい。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	協力医療機関が近くにないことから、急変、事故発生時には救急車の要請をするよう徹底しているが、不定期的な訓練しか行えていない現状がある。	○	毎年一回以上、行えることが望ましいと考える。 今後提案していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急連絡網は、職員全員で把握し、防災訓練や避難訓練を定期的に行うことで、日頃からの災害についての意識や近所づきあいにも努めている。	○	夜間についての訓練も行ってみたい。 検討していく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	グループホームとしての方向性を話し、そうすることで生じるリスクについては必要時に家族に話し、理解を得て意見をもらっている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	少しでも普段と違う様子があれば職員間で情報を共有している。 受診が必要な場合はすぐ受診をし、家族へ報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容については、個別ファイルを職員全員が夜勤帯などを利用して確認できるようにしている。受診の際、内服変更や追加処方があった場合は、服用方法や副作用等の申し送りをしている。また、入所者自身の心身の状態に変化があった場合は、家族、主治医に相談し調整してもらっている。	○	薬の飲み忘れ、誤薬の報告もあるため、その都度予防策を話し合っていくことを続けていく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や影響について、職員の理解は得られていると考える。水分摂取、身体を動かす働きかけに加え食物からの予防策、入浴やマッサージ効果等、便秘の兆候が出た場合に話をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の声掛けはしているが、定期的な口腔内チェックは行えていないのが現状である。支援の必要な方については対応している。義歯使用者に関しては週一回の消毒日をもうけている。	○	全員について、定期的な口腔内確認を行えるようにしていきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による栄養バランスのチェック、勉強会の開催で職員の意識が向上しつつある。また、水分が取りにくい方については主治医によるアドバイスをもらっている。本人のその日の状態をみながら、個別の栄養調整やこまめな水分補給をしている。必要に応じ水分摂取のチェックをしていきたい。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	研修等に参加することで基本的なことの再確認や新しい知識を学び、対策に結び付けている。生活の中でできる範囲の対策をしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者の業務として、食品の賞味期限や冷蔵庫の掃除の徹底をしている。衛生管理としては、基本的に、食材はその日のうちに使用し、調理器具も使った人が片づけるようにしている。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	出入りして気持ちいいように、玄関には植物を置き、季節の飾り物や靴を履いたり、外を眺めたりできるように長いすを設置している。日中は必要に応じ照明の調整をしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員がそれぞれ気にかけ対応できている。 手作りの物や季節にに合った物を飾り季節感のある空間作りに努めている。また、整理整頓と言うよりは、必要な物がすぐ手に取れるように生活感のある場作りに努めている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間や洋間のソファーで臥床したり、食堂で居眠りする方もおられる。一人で過ごしながらも生活の音が居心地の良さになっていると感じる。玄関口の中と外にある長椅子では、一人若しくは数人で座って過ごす姿がよく見られる。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にできるだけ馴染みのある物を持ってきてもらえるよう家族に相談し、家族の写真や共に過ごす入所者との写真も飾るようにしている。	○	居室内の私物がまだまだ少ないと感じる。職員側からなじみの物品について問いかけていき、なじみの物が増えるように努めていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	状況に応じて換気、空調など利用者の意見も聞きながら行っている。夏や冬でも午前中は窓を開放する時間をとり、自然の空気を取り込むようにしている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	補助具についても、個々に応じたものを専門の方の意見を聞きながら購入するようにしている。また、手すりについては、必要になった時に検討をし、設置するか否か話し合いを持つ方向で考えている。現在、二カ所について必要であるとの検討結果となり手すりを設置している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	新しい物品など取り入れる際には、みんなで話し合い決めることにしている。利用者の立場に立った環境づくりを心がけている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室の窓から見えるようにプランターを置いて花を植え、畑には野菜や花、柿の木を植えて楽しみにつながるように努めている。野菜や果物、花の会話や水をあげたり、手入れをする機会作りに努めている。		

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ○　②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ○　③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ○　②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ○　③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）
利用者家族の面会や来客があった際は、食堂や居室などでお茶を飲みながら過ごしてもらえるように配慮している。
帰りの際には玄関までお見送りをし、家庭的な雰囲気、居心地のいい空間づくりを心がけている。
毎日、１０時と１５時には利用者、スタッフともにお茶をし談話の時間をもうけ、１日１回は笑ってもらえる関わりに努めている。
今後も地域の行事には積極的に参加し、施設の行事には地域の方を招き交流を続けていきたい。
最近では、「ボランティアが必要な時には気軽に声をかけて」との言葉もいただけるようになっている。